

JSCS

日本カリキュラム学会
The Japanese Society for Curriculum Studies

第34回大阪教育大学大会プログラム

2023年7月8日(土) ~ 9日(日)

〒543-0054 大阪府大阪市天王寺区南河堀町 4-88
大阪教育大学（天王寺地区）
第34回大会実行委員会
委員長 木原俊行

E-mail jscs34oku@gmail.com

大会 HP <http://jscs.b.la9.jp/meeting/2023.html>

後援：大阪市教育局 堺市教育局 大阪教育大学

34th

日本カリキュラム学会

第34回 大阪教育大学 大会プログラム

◆前 日 2023年7月7日(金) 16:00~18:00 理事会

大阪教育大学天王寺キャンパス西館教職大学院第4講義室(319)

◆第1日 2023年7月8日(土)

受付 9:30~ 大阪教育大学天王寺キャンパス西館入口すぐ

10:00	課題研究 I カリキュラム・マネジメントの 実質化における現状と展望 西館ホール(107)	課題研究 II インクルーシブ教育をめぐる カリキュラム研究の今後を展望する 西館講義室E/F(207-1/2)
12:00	新理事会(西館教職大学院第4講義室(319))・昼食	
13:00	自由研究発表 I	
15:00	休憩・移動	
15:30	公開シンポジウム ダイバーシティとカリキュラム ①メイン会場: 西館ホール(107) ②サブ会場: 西館講義室E/F(207-1/2)に配信	
17:30		

◆第2日 2023年7月9日(日)

受付 9:30~ 大阪教育大学天王寺キャンパス西館入口すぐ

10:00	自由研究発表 II	
12:00	昼食	
12:45	総会(西館ホール(107))	
13:20	休憩・移動	
13:30	課題研究 III 「特別の教科 道徳」の功罪 西館講義室C(201)	課題研究 IV カリキュラムの『不易と流行』を語る IV -カリキュラム研究方法論の批判- 西館講義室E/F(207-1/2)
15:30	休憩・移動	
15:45	自主企画セッション I 世界の総合・探究学習を考える 西館講義室A(101)	自主企画セッション II 探究学習の多様性の検討 西館講義室D(204)
17:15		

大会参加要領

1. 会場

大阪教育大学天王寺キャンパス西館（北西門からお入り下さい）。
アクセスについては下記サイトをご参照下さい。

https://osaka-kyoiku.ac.jp/campus_map.html



2. 受付

大阪教育大学天王寺キャンパス西館入口すぐ（2日間とも同じ場所です）。

3. 大会参加申し込み（参加費）について

【参加登録（参加申込）】

オンラインシステムにより事前の参加登録を受け付けます。参加をご予定の方は、以下の受付期間にシステムにより参加のお申込みおよび参加費の納付をお願いします。詳しくは学会ホームページの「最新の全国大会」をご参照下さい（<http://jscs.b.la9.jp/meeting/meeting.html>）。

なお、大会第1日（7月8日（土））15:30 から予定されております公開シンポジウムにつきましては、どなたでも無料で参加いただけます（人数把握のため、上記、参加申込システムでシンポジウムのみ参加受付も行っております。ただし、当日の参加も可能です）。この機会に是非ご参加下さい。また、公開シンポジウムについては、Zoomによる配信もいたします。その入室情報は、後日、上記の「最新の全国大会」にて、ご提供いたします。

【事前参加申し込み期間】2023年4月3日（月）～6月14日（水）

※大会当日も会場にて参加受付を行います。運営の円滑化のため、できる限り事前の参加申込・参加費納付にご協力下さい。

【事前参加申込システム】<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply/JSCS>



【参加費】

参加費収納事務の効率化と納付手続きの利便性向上のため、クレジット決済を導入しております。クレジット決済につきましては、参加申込システム上で手続きをなさして下さい。また、従来通り、郵便振替でのご入金も承っておりますので、口座情報については、参加申込システムの申込完了メールをご参照下さい。

正会員	3,000円
学生会員	1,000円
臨時会員	4,000円
公開シンポジウム参加のみ	無料

4. 昼食

大学構内の生協食堂（営業時間：土曜日 10:00～18:00、日曜日 10:00～14:00）や大学周辺の飲食店・コンビニなどをご利用下さい。

5. 要旨集および発表資料について

自由研究発表・シンポジウム・課題研究の発表要旨は、大会2週間前までには大会HPよりダウンロード可能となります（会員／臨時会員（参加者））。配布準備ができましたら、大会HP・メール等でご案内申し上げます。

また、上記に加え、各発表者の要旨原稿および発表資料（任意／システムへアップロードした方のみ）についても大会2週間前までには専用サイトにて閲覧・ダウンロード配布予定ですので、こちらについても準備が整いましたら、併せてご案内申し上げます。

6. 問い合わせ先（大会事務局）

日本カリキュラム学会第34回（大阪教育大学）大会実行委員会

大会運営・企画関係：jscs34oku@gmail.com

大会実行委員会 白井智美

入会・会員管理・会費管理関係：g050jscs-mng@ml.gakkai.ne.jp

（株）ガリレオ学会業務情報化センター内 日本カリキュラム学会事務局

参加登録・発表申込関係：g050jscs-taikai@ml.gakkai.ne.jp

（株）ガリレオ学会業務情報化センター内 日本カリキュラム学会事務局（大会担当）

自由研究発表要領

1. 発表時間について

自由研究発表の時間は、原則として次の通りです。

個人研究発表25分（発表20分・質疑討議5分）

共同研究発表50分（発表40分・質疑討議10分）

なお、共同研究であっても、発表者がお一人の場合は個人研究発表と同じ時間設定です。

2. 発表資料について

発表資料は、発表者が、ご自身で発表申込システムからアップロードできます。大会参加者は、発表者がアップロードした資料を各自のPCやタブレットなどの端末から閲覧することになります。また、紙媒体で発表資料を配布したい場合は、各自で必要部数をご用意の上、当日開始10分前までに各部屋後方のコーナーに置いて下さい。大会実行委員会では追加の印刷はできかねますので、ご了承下さい。事前に送付することもお控え願います。なお、大会校では印刷機やコピー機を使用できません。

3. 発表用機材について

発表の際に機材を使用する予定の発表者は、分科会開始前に各自で事前に動作確認を行って下さい。なお、HDMIの接続ケーブルは大会校で用意しますが、それ以外のケーブルやパソコンなどは各自でご用意願います。

4. 発表辞退について

やむを得ない事情で発表を辞退される場合は、必ず事前に大会実行委員会までにメールでご連絡下さい。なお、発表辞退に伴う発表時刻の繰り上げは実施しません。

自主企画セッション要領

1. 発表資料について

発表資料は、発表者が、ご自身で発表申込システムからアップロードできます。大会参加者は、発表者がアップロードした資料を各自のPCやタブレットなどの端末から閲覧することになります。また、紙媒体で発表資料を配布したい場合は、当日各会場にて企画者が配布して下さい（係員はおりません）。大会実行委員会では追加の印刷はできかねますので、ご了承下さい。事前に送付することもお控え願います。なお、大会校では印刷機やコピー機を使用できません。

2. 発表用機材について

機材を使用する場合は、開始前に各自で事前に動作確認を行って下さい。なお、HDMIの接続ケーブルは大会校で用意しますが、それ以外のケーブルやパソコンなどは各自でご用意願います。

大阪教育大学へのアクセスと略地図

天王寺キャンパス：〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町 4-88

JR 天王寺駅、大阪メトロ御堂筋線天王寺駅、近鉄大阪阿部野橋駅下車、徒歩約 10 分。

JR 寺田町駅下車、徒歩 5 分。



※ 現在、天王寺キャンパスは構内の工事のため、正門の他に、(上記地図には記載がありませんが) 西館に近い「北西門」が仮設されています。大会期間中は、この北西門を入場門として利用なさってください。

第1日（7月8日）10:00～12:00

課題研究 I

カリキュラム・マネジメントの実質化における現状と展望

西館ホール（107）

より良い人生や社会を自ら創り出す子どもたちの育成を目指して各学校がカリキュラム改善を進める上で、カリキュラム・マネジメントの重要性が注目されている。本学会においても、カリキュラム・マネジメントをめぐる議論が活発に行われてきた。また、2017年改訂学習指導要領においても、「各学校においては……教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする」と述べられている。

しかし、各学校がカリキュラム・マネジメントを実質化する上では、様々な困難に直面することも事実である。そこで本課題研究では、まず、学校現場でカリキュラム・マネジメントを実質化するうえで、どのような課題が見られるのかなどの現状分析を行う。また、カリキュラム・マネジメントの先進事例を概観し、特に子どもの参画がもたらす効果について紹介する。さらに、子どもの多様性に対応し、学校のインクルーシブネス（包摂性）を高める上では、どのようなカリキュラム・マネジメントが求められるのかについて検討する。これらにより、カリキュラム・マネジメントを実質化する上での今後の課題と展望を探りたい。

<発表者>

- ・カリキュラム・マネジメントの現状

吉富芳正（明星大学）

- ・カリキュラム・マネジメントへの子どもの参画

村川雅弘（甲南女子大学）

- ・包摂性を高めるカリキュラム・マネジメント

奥村好美（京都大学）

<司会>

吉田尚史（山形大学）

西岡加名恵（京都大学）

<コーディネーター>

村川雅弘（甲南女子大学）

西岡加名恵（京都大学）

第1日（7月8日）10:00～12:00

課題研究Ⅱ

インクルーシブ教育をめぐるカリキュラム研究の今後を展望する

西館講義室E/F（207-1/2）

2014年1月に「障がい者権利条約」を批准した日本では、その政策的実現の義務を果たすべく、文科省による公教育政策においてもインクルーシブ教育の実現が懸案事項になったが、そこで登場したのが "通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である" という理路であった。しかし、こうした国際的に見れば分離教育を前提としているとしか理解できそうにもない政策方針は、2022年9月の国連による日本への勧告を見ても、少なくとも国際的には是認されていないと判断せざるを得ない。こうした状況に鑑みると、本学会でも、特別支援という枠組みにとどまらず、インクルーシブ教育の実現に資するカリキュラム研究に関して前進できる機会を共有することには、相応の意義が認められてよい。他方で、本学会にこの方面の研究者は決して多くないため、学会外からも報告者を招いて、上記の目的の達成に迫りたい。

そこで、まず、米国の特別支援教育に関する充実した業績をお持ちの羽山会員から、同国における（通級の位置付けにある）リソースルームや通常学級内での支援をはじめとする多様な支援提供方法について、その歴史的経緯を含めた話題提供を、次に、北欧のインクルーシブ教育の制度的側面だけでなく実践的側面にも通曉されている是永氏から、北欧における特別な学級、特別な学校の制度的位置づけ、及び実際の指導に関して、現地調査結果も踏まえた紹介を、さらに、現在はインクルーシブ教育に関する在野研究者として幅広い活動を展開されている野口氏からは、上に触れた国連による対日初審査の総括所見という国際的文脈を踏まえて、日本におけるこの方面での課題の指摘を、それぞれお願いする予定である。

今回は指定討論者の役割をコーディネーターが兼ねることで、全体討論の呼び水になることを目指し、多くの会員の方々との活発な議論を通して、インクルーシブ教育をめぐるカリキュラム研究の今後の可能性や課題に関する学会としての自覚化を図る端緒としたい。

<発表者>

- ・アメリカ合衆国におけるインクルーシブ教育実践の模索
—多様な支援提供方法の実現と日本への示唆—

羽山裕子（滋賀大学）

- ・北欧におけるインクルーシブ教育の制度と実際
—日本における特別支援学級および特別支援学校の今後の展望を念頭に—

是永かな子（高知大学・非会員）

- ・日本におけるインクルーシブ教育の課題と今後の在り方
—国連勧告を踏まえて—

野口晃菜（一般社団法人 UNIVA・非会員）

<司会・コーディネーター>

澤田稔（上智大学）

柴田好章（名古屋大学）

第1日（7月8日）13:00～15:00

自由研究 I - 1

西館講義室 A（101）

司会 上地完治（琉球大学）
澤田稔（上智大学）

- 13:00 消費者教育における企業教材の理解
—アメリカ情報の受容とその展開—
上杉嘉見（東京学芸大学）
- 13:25 ジョセフ・シュワブの「実践的であること」を読み解く
若松大輔（弘前大学）
- 13:50 「鍵的問題」はなにがどう批判されたのか
—一般陶冶としての問題志向カリキュラムの可能性と限界—
田中怜（筑波大学）
- 14:15 教育改革省察のための基礎理論の形成
—ローザの「加速」概念を手がかりとして—
宮本勇一（岡山大学大学院）

全体討議（14:40～15:00）

自由研究 I - 2

西館講義室 B（115）

司会 柴田好章（名古屋大学）
二宮衆一（和歌山大学）

- 13:00 英国の Post1992 大学における国際化
—グローバル・シティズンに着目した2つの大学の事例から—
杉野知恵（お茶の水女子大学）
- 13:25 イングランドにおける職業教育の「アカデミック化」に関する
—考察—職業教育資格「T レベル」に焦点を当てて—
岡部善平（小樽商科大学）
- 13:50 イングランド GCE-A レベル歴史における教科書とハイステイ
クステストの連続性—「史資料分析能力」をいかに育成・評価
しているかに焦点化して—
○松本理敬（滋賀県立東大津高等学校）
○玉井慎也（北海道教育大学釧路校）

全体討議（14:40～15:00）

第1日（7月8日）13:00～15:00

自由研究 I - 3

西館講義室C（201）

司会 倉本哲男（静岡文化芸術大学）
的場正美（愛知文教大学）

13:00 台湾における環境教育カリキュラムの構成原理
—初等教育段階を中心に—

山下大喜（宇部工業高等専門学校）

13:25 J.L.メリアムの着想に基づいたミズーリ大学附属初等学校におけるカリキュラムと授業実践

西野雄一郎（愛知教育大学）

13:50 社会情動的能力の育成に関する国際比較研究
—政策文書等の分析を中心に—

○佐藤博志（筑波大学）○柏木智子（立命館大学）○本所恵（金沢大学）

○西野倫世（大阪産業大学）○小野まどか（植草学園大学）

○吉川麻紘（筑波大学大学院）

全体討議（14:40～15:00）

自由研究 I - 4

西館講義室D（204）

司会 村川雅弘（甲南女子大学）
八尾坂修（玉川大学）

13:00 カリキュラムのマネジメントサイクルが実質化する様相
—大学附属小学校・中学校におけるカリキュラム開発実践を通して—

陸奥田維彦（大阪教育大学大学院）

13:25 都市部の小学校における少人数学級の効果と組織の協働性について
—チーム学校と独自のカリキュラムの実践を通じて—

山口博功（大阪市立平林小学校）

13:50 カリキュラム・マネジメントの意識化を促す校内研修の方策とその特徴
—ミドルリーダーによるアプローチは教師のエンジェンシーをいかに高めるか—

○島田希（大阪公立大学）

木原俊行（大阪教育大学）

14:15 カリキュラムグランドデザインの全体構造の視点と課題に関する研究
—上越市の小学校のグランドデザインを手掛かりに—

野澤有希（上越教育大学大学院）

全体討議（14:40～15:00）

第1日（7月8日）13:00～15:00

自由研究 I - 5

西館講義室E/F（207-1/2）

司会 西岡加名恵（京都大学）
廣瀬真琴（鹿児島大学）

- 13:00 協働力育成をめざした探究学習カリキュラムの実践
—メタ認知を用いた全校的な取組み—
田中和代（大阪府立三国丘高等学校）
- 13:25 キャリア形成を促す異年齢交流カリキュラムの開発
—卒業生の人材を活用した持続可能なキャリア教育を目指して—
村瀬悟（みよし市立三好中学校）
- 13:50 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した中学校教育におけるカリキュラム開発—知性を育み、省察性を高める「人間道徳」を通して—
○赤木隆宏（香川大学教育学部附属高松中学校）
○左海亮（香川大学教育学部附属高松中学校）

全体討議（14:40～15:00）

自由研究 I - 6

西館ホール（107）

司会 工藤文三（浦和大学）
子安潤（中部大学）

- 13:00 『アイヌ神謡集』の編訳者になる知里幸恵の学びについての考察
—複数自己を形成する実存的な正統的周辺参加の構造—
佐長健司（福岡女子短期大学）
- 13:25 ジェンダーから見る隠れたカリキュラムの分析について
—知識伝達の視点から—
王鶴橋（岡山大学）
- 13:50 大学入学共通テスト英語試験の過去と未来
—2025年新課程入試と学習指導要領の整合性に着目して—
須藤爽（筑波大学大学院）
- 14:15 人類の歴史の大波とカリキュラム研究
—新しい学力観の検討に向けて—
磯田文雄（花園大学）

全体討議（14:40～15:00）

第1日（7月8日）13:00～15:00

自由研究 I - 7

西館第2講義室（306）

司会 石井英真（京都大学）
佐久間敦史（大阪教育大学）

- 13:00 総合学習におけるカリキュラム開発に対する支援体制の検討
○福田晃（金沢大学大学院）
本所恵（金沢大学）
- 13:25 探究型カリキュラム協働開発によって学校組織に生じる矛盾とその対処
戦略への活動理論アプローチ—X 高校における学校改革のアクションリ
サーチにもとづく事例研究—
木村優（福井大学）
- 13:50 教科の学びを深める情報活用能力育成カリキュラムの開発
—CBFCLC開発理論を基に—

○兵藤清一（愛媛大学大学院教育学研究科）
○林海翔（愛媛大学大学院教育学研究科）

全体討議（14:40～15:00）

自由研究 I - 8

西館第3講義室（307）

司会 水野正朗（東海学園大学）
森久佳（京都女子大学）

- 13:00 小学校算数科における「めあて」に関する研究
—算数科教科書の比較調査—
木村憲太郎（大阪総合保育大学）
- 13:25 高校生の授業参画の試みに対する生徒の意識調査
平野裕一（大阪工業大学）
- 13:50 経験と学問をつなぐカリキュラムの指導と評価の在り方
○鶴川護（香川大学教育学部附属高松小学校）
○木村勇樹（香川大学教育学部附属高松小学校）

全体討議（14:40～15:00）

第1日（7月8日）15:30～17:30

公開シンポジウム

ダイバーシティとカリキュラム

①メイン会場：西館ホール（107）

②サブ会場：西館講義室E/F（207-1/2）配信

いま全国的に、地域社会が、その構成員の国籍・文化的背景・生き方や思想が多様性に富む環境（ダイバーシティ）に変化しつつある。また、性の多様性についても理解が広がっている。では、ダイバーシティと呼ばれる環境に地域社会が変化しつつあるいま、学校のカリキュラム編成はいかにあるべきか。

これまでこの問題には、批判的教育学を方法論とした教育学研究が取り組んできた。日本における批判的教育学研究は、大きく二つの潮流を生み出してきたように思われる。ひとつは、カリキュラムを抽象的な概念に再定義し、学校のカリキュラムがいかに人種や階級、ジェンダーに基づく非対称な権力関係を反映しているか、カリキュラムを通じた社会的不平等の再生産を暴こうとする研究である。この研究は多様な成果を挙げているものの、カリキュラムの批評から再編成へと向かうベクトルが弱い。もうひとつは、カリキュラムよりも教育方法に焦点化し、教師－生徒間の権力の非対称を克服する教育方法を創造しようとする研究である。この研究についても多様な成果が見られるものの、そもそもカリキュラムという次元への言及が少ない。

そこで、本シンポジウムでは、カリキュラム研究として批判的教育学研究を前進させることを目指し、上記二つの潮流の双方を視野に収めた上でダイバーシティと呼ばれる環境に変化しつつある学校においてカリキュラムを編成するための新しい知見をいかに導くことができるのかという問題を追求したい。

登壇者には、次のようなタイトルで、現在、取り組んでいる研究の内容を報告していただく。そして、その異同を確認しながら、また、フロアからの意見も拾い上げつつ、上記の問題を掘り下げる。

<企画者>

- ・八田幸恵（大阪教育大学）

<登壇者>

- ・多様性の政治とカリキュラム－不平等の視点からの問い直し－
竹川慎哉（愛知教育大学）
- ・学校の片隅を支える小さな教員とカリキュラムのつなぎ目
－外国につながる子どもの教育の場から－
南浦涼介（広島大学）
- ・自己を綴り、セカイに生きるカリキュラム
－自伝が沈黙を破るとき－
森本和寿（大阪教育大学）

<司会・コーディネーター>

- 八田幸恵（大阪教育大学）
- 木原俊行（大阪教育大学）

MEMO

第2日（7月9日）10:00～12:00

自由研究Ⅱ－1

西館講義室A（101）

司会 天笠茂（千葉大学）

唐木清志（筑波大学）

10:00 カリキュラム・マネジメントにおける教師エージェンシーに関する
考察

千々布敏弥（国立教育政策研究所）

10:25 「GIGA スクール構想」推進のためのカリキュラム・マネジメント
—「学校組織マネジメント」と校内研修に着眼して—

○八弮明美（知多市立旭東小学校）

○村川雅弘（甲南女子大学）

11:15 教員及び教員志望者のカリキュラムマネジメントの捉え方の実態と
変容—教職大学院の授業受講者のポートフォリオの分析—

田村知子（大阪教育大学）

全体討議（11:40～12:00）

自由研究Ⅱ－2

西館講義室B（115）

司会 原田信之（名古屋市立大学）

松下佳代（京都大学）

10:00 教員養成カリキュラムにおけるICTの位置づけや考え方に関する
国際的な研究動向

小柳和喜雄（関西大学）

10:25 ドイツ NRW 州における学校プログラムに関する事例研究

的場正美（愛知文教大学）

10:50 倫理・宗教教育における思考力、判断力、表現力の育成—ドイツ・
NRW 州の実践哲学科と各宗派のカリキュラムに着目して—

濱谷佳奈（中央大学）

全体討議（11:15～12:00）

第2日（7月9日）10:00～12:00

自由研究Ⅱ－3

西館講義室C（201）

司会 金馬国晴（横浜国立大学）
富士原紀絵（お茶の水女子大学）

- 10:00 安全科におけるカリキュラム編成の試み
ーコンピテンシーに基づくコンテンツの開発と再編の狭間ー
○森本和寿（大阪教育大学）
末廣彩華（大阪教育大学附属池田小学校）
- 10:25 生野南小学校における生活指導の検討
西岡加名恵（京都大学）
- 10:50 「飛躍知」を育む中等教育6年一貫探究カリキュラムの開発と評価
に関する実践研究
ー「課題研究ロードマップ」の開発と活用を軸にー
藤井正太（奈良女子大学附属中等教育学校）

全体討議（11:15～12:00）

自由研究Ⅱ－4

西館講義室D（204）

司会 草原和博（広島大学）
峯明秀（大阪教育大学）

- 10:00 教科書における道徳科との教科等横断的な関連付けに関する一考察
中野真悟（刈谷市立朝日小学校）
- 10:25 小学校算数科と中学校理科の他教科間連携に関する一考察
橋本美彦（中部大学）
- 10:50 一貫地理教育カリキュラムにおける単元開発のアプローチ
吉田剛（宮城教育大学）
- 11:15 素描 中学校社会科授業研究ー若き実践家に託す一本のバトンー
日詰裕雄（招賢塾）

全体討議（11:40～12:00）

第2日（7月9日）10:00～12:00

自由研究Ⅱ－5

西館講義室E/F（207-1/2）

司会 磯田文雄（花園大学）
富澤美千子（横浜美術大学）

- 10:00 池袋児童の村小学校における学校経営理念の形成
—保護者の経営参加の意味—
香山太輝（東京学芸大学非常勤講師）
- 10:25 東京女子高等師範学校附属小学校浅黄俊次郎における低学年教育
と教科研究
塚原健太（琉球大学）
- 10:50 米国のモデルカリキュラムの構造分析
—戦後日本6・3・3制カリキュラムの観点から—
水原克敏
- 11:15 行動目標的方法の契機としての「思考力」目標
浅沼茂（放送大学）

全体討議（11:40～12:00）

自由研究Ⅱ－6

西館ICT模擬授業室（201）

司会 木村優（福井大学）
矢野裕俊（武庫川女子大学）

- 10:00 韓国の道徳科における情報倫理教育
—初等学校の教科書—
関根明伸（国士舘大学）
- 10:25 教育内容のあり方として見る powerful knowledge（力に満ちて
知ること）実践状況検討を始めてみて
柳田雅明（青山学院大学）
- 10:50 A Comparative Analysis on Multiplication and Division: The case
of Zambia, South Africa and Japan
Arthur Mungalu（広島大学大学院）
- 11:15 初等教育の発達段階における道徳的判断に関するカリキュラムづ
くり
作田澄泰（九州女子大学）

全体討議（11:40～12:00）

第2日（7月9日）10:00～12:00

自由研究Ⅱ－7

西館第2講義室（306）

司会 島田希（大阪公立大学）
高橋亜希子（南山大学）

10:00 日本におけるIB教員養成カリキュラム

赤羽寿夫（東京学芸大学教職大学院）

10:25 学校現場におけるカリキュラムマネジメントの充実をいかに図るか—福岡教育大学附属小倉中学校における教科等横断的学習デザイン研究の事例から—

○柴田康弘（飯塚市教育委員会・前福岡教育大学附属小倉中学校）

上田苑加（福岡教育大学附属小倉中学校）

10:50 授業実践の文化的基底によるカリキュラム・マネジメントの再検討

○水野正朗（東海学園大学）

○柴田好章（名古屋大学）

○サルカール・アラニ・モハメド・レザ（名古屋大学）

全体討議（11:40～12:00）

自由研究Ⅱ－8

西館第3講義室（307）

司会 上杉嘉見（東京学芸大学）
臼井智美（大阪教育大学）

10:00 アメリカにおける人種・民族マイノリティの子どもたちにとっての「文化に関連する指導法」（culturally relevant pedagogy）の意義—コミュニティの文化を取り入れた学校カリキュラムの理論と実践—

磯田三津子（埼玉大学）

10:25 カナダのカリキュラムにおける多様性の扱いに関する考察

—キムリックの多文化主義論をアプローチとして—

周星星（岡山大学）

10:50 「手続的概念」を重視した系統性のある歴史教育カリキュラムの構成原理—カナダ TC2教材の「第1次世界大戦期におけるカナダ初の抑留作戦」の分析を通して—

○玉井慎也（北海道教育大学釧路校）

高松尚平（太宰府市立太宰府西中学校）

渡邊竜平（静岡理工科大学星陵高等学校）

全体討議（11:15～12:00）

第2日（7月9日）13:30～15:30

課題研究Ⅲ

「特別の教科 道徳」の功罪

西館講義室C（201）

2015(平成27)年に学習指導要領が一部改正され、「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」(道徳科)となった。それは1945(昭和20)年の修身科の廃止、1958(昭和33)の「道徳の時間」の特設に続く、大きな画期を成す制度的変化であった。「道徳の時間」から「道徳科」へと移行した当初は、「考え、議論する道徳」、「物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える」、「問題解決的な学習」といったキーワードが取り上げられ、学校内外でも多くの関心を集めていた。本学会においても、2015年大会において公開シンポジウム『「特別の教科 道徳」の設置で道徳教育や教育課程がどう変わるのか』が実施され、当時の関心の高さがうかがえる。

本課題研究では、この公開シンポジウムの関心を引き継ぎながら、道徳の特別教科化がもたらしたものの、あるいはもたらすことが期待されながらも変わらなかったものなどについて考えてみたい。「功罪」という言葉は少々刺激が過ぎるかもしれないが、道徳の特別教科化によってもたらされた変化や変わっていない状況などをどう意味づけるかという点検作業を通して、多様な観点から道徳の教科化の意義と課題について議論を深めたい。

<発表者>

- ・「資質・能力」の育成と「考え、議論する道徳」
—今の学校のOSで新しいアプリを使えるか?—
松下良平（武庫川女子大学・非会員）
- ・特別の教科道徳がめざす授業は実現できたか？
服部敬一（大阪成蹊大学・非会員）
- ・道徳教育改革の現状と展望
西野真由美（国立教育政策研究所）

<司会・コーディネーター>

- 上地完治（琉球大学）
- 北尾悟（奈良女子大学附属中等教育学校）

第2日（7月9日）13:30～15:30

課題研究Ⅳ

カリキュラムの『不易と流行』を語るⅣ

—カリキュラム研究方法論の批判—

西館講義室E/F（207-1/2）

カリキュラムにかかわるキーワードに関して、その分野・領域の先輩研究者の方々に、その研究対象に対する思いや姿勢、配慮すべき事柄などを中堅・若手に語っていただく。それを受けて、中堅・若手研究者がその研究対象に関するかかわり方や抱負等を述べ、協議を通して研究的な示唆を得る。以上が「Ⅲ」までの基本的な趣旨だった。

今回は、元代表理事（2014年から2017年）の長尾彰夫先生をお迎えし、「カリキュラム研究方法論の批判」をテーマとする。あわせて、基本的な趣旨を踏襲しつつ、新たな試みとして指定討論者を置き、議論の充実に努めることとしたい。

<発表者>

・カリキュラム研究方法論の批判

長尾彰夫（大阪教育大学名誉教授・元学長）

<指定討論者>

臼井智美（大阪教育大学）

<司会・コーディネーター>

富士原紀絵（お茶の水女子大学 広報・若手育成委員）

根津朋実（早稲田大学 広報・若手育成委員）

第2日（7月9日）15:45～17:15

自主企画セッション I

世界の総合・探究学習を考える

西館講義室 A（101）

日本では、2018年の学習指導要領改訂で、高校における「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」へと変更された。学習から探究へという言葉への変更は、世界的に見ると、Inquiry based learning といった用語の流行にも結びつく。日本ではこの「探究」の中身をいかに充実させていくかが今後の課題であろう。

この点に注目しつつ世界を改めてながめると、総合・探究学習はもう一歩先へ進んでいるように見える。例えば、ヨーロッパのいくつかの国では、中等教育修了資格試験（アビトゥアやバカロレアなど、各国によって呼称はさまざま）に、いわゆる総合あるいは探究学習が必須要件として新たに位置づけられるようになっている（『変動する大学入試——資格か選抜か ヨーロッパと日本』（大修館書店、2020年））。

そこで、わたしたちは世界の総合・探究学習の諸相を研究することにした。その成果の詳細は、『変動する総合・探究学習—欧米と日本 歴史と現在』（大修館書店、2023年3月）で確認していただければ幸いである。

本ラウンドテーブルは、上記二冊の内容を踏まえながら、欧州ではどのようなカリキュラムで総合・探究学習が行われているのか、例えば、SDGs教育、主権者教育、メディアリテラシーやアントレプレナー教育など、近年注目されている課題について検討してみたい。加えて、ハイスイクスな試験での総合・探究学習の評価についても、上記2冊に新たな情報を追加する形で発表し、指定討論を含み、フロアの皆さんと検討したいと考えている。

<企画者>

伊藤実歩子（立教大学）

<発表者>

- ・イタリアの場合
- ・スウェーデンの場合
- ・イギリスの場合

徳永俊太（京都教育大学）
本所恵（金沢大学）
二宮衆一（和歌山大学）

<指定討論>

福田晃（金沢大学附属小学校、金沢大学大学院）

<司会>

森久佳（京都女子大学）

第2日（7月9日）15:45～17:15

自主企画セッションⅡ

探究学習の多様性の検討

西館講義室D（204）

高等学校新学習指導要領では、「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」へと変更され、各教科でも「古典探究」や「理数探究」など「探究」を含む科目が複数新設された。このように、「探究学習」は昨今の教育改革における重要なキーワードの1つとなっている。中でも、現在では、「総合的な学習の時間」の創設当初に実践されていた自己の課題に対して個別で取り組む探究のみならず、地域や国際的な課題の解決を目指す探究、高度な研究活動を軸とした探究など、実に多岐にわたる実践が展開されている。では、どのような要因・背景でこのような多様化した探究学習が生まれているのだろうか、また、中等教育（とくに高校教育）における探究学習の固有性を何に見出すことができるだろうか。

本ラウンドテーブルでは、まず、高橋報告で2000年頃の探究学習の萌芽期に展開していたA高校における卒業研究の実践の特色について論じる。次に、松尾・宮本報告で教育魅力化に取り組む島根県立隠岐島前高等学校の探究的な学びの特質を検討する。最後に、田中・石田・岡村報告で、広尾学園中学校高等学校医進・サイエンスコースにおける「研究活動」を軸とした探究のカリキュラムの様相を述べる。

これらの各報告に対して、松下による指定討論を行うことで、各実践を批判的に捉え直し、探究学習の多様性を描き出すとともに、中等教育における探究学習の固有性について議論を深める予定である

<企画者>

田中孝平（京都大学大学院）

石田智敬（日本学術振興会特別研究員 PD）

松下佳代（京都大学）

<発表者>

・自身の関心から課題を設定する個別探究学習—2000年頃のA高校の卒業研究—

高橋亜希子（南山大学）

・教育魅力化に取り組む島根県立隠岐島前高校における探究的な学び

松尾奈美（島根大学）

宮本勇一（岡山大学）

・広尾学園・医サイコースにおける「研究活動」を軸とした探究のカリキュラム

田中孝平（京都大学大学院）

岡村亮佑（京都大学大学院）

石田智敬（日本学術振興会特別研究員 PD）

<指定討論者>

松下佳代（京都大学）

<司会>

石田智敬（日本学術振興会特別研究員 PD）

「探究」をどう評価すればいい!?

高校での「探究的な学習」の目標と評価、指導の基本を押さえ、その助けとなるポートフォリオ評価法、ルーブリックなどを実践事例を交え解説。

第1章 「探究的な学習」の指導と評価

- 1 カリキュラムにおける「探究的な学習」の位置づけと評価
- 2 「総合的な探究の時間」の目標と指導と評価の一体化 など

第2章 「探究的な学習」の多彩な展開と評価

- 1 高校生ならではのアカデミックな探究—SGHの取り組み
- 2 「わがこと」として探究に取り組む など

第3章 標準ルーブリックの開発と活用

- 1 課題研究の「標準ルーブリック」提唱に向けての取り組み
- 2 「標準ルーブリック」開発の経緯 など

高校に1冊!

月刊高校教育

毎月13日発売



定価 / 1,045円(税込)

年間誌代 / 14,905円(税込)

※特大号1冊
増刊2冊を含む

高等学校「探究的な学習」の評価

ポートフォリオ、検討会、ルーブリックの活用



編著者
西岡 加名恵 (にしおか かなえ)
京都大学大学院教育学研究科教授
大貫 守 (おおぬき まもる)
愛知県立大学教育福祉学部准教授

- A5版・204ページ
- 定価2,420円(本体2,200円+税)
- ISBN978-4-7619-2926-8

詳しくは、「学事出版」ホームページをご覧ください。ご注文もできます。 <https://www.gakuji.co.jp>

学事出版 千代田区神田神保町1-2-5 和栗ハトヤビル3F TEL 03-3518-9016 FAX 0120-655-514

月刊「教育展望」

毎月1日発行、A5判、64頁、定価493円(448円+税)

2023年 特集

7・8月合併号

教育課程改訂論を超えた
次期学習指導要領への提言

6月号

子どもが主体の学びについて

5月号

教員の資質・能力の向上に向けて

4月号

働き方改革と学校マネジメント

3月号

GIGAスクール構想の先にある教育の目指すもの

1・2月合併号

これからの時代に求められる
カリキュラムの在り方

2022年 特集

12月号

第51回教育展望セミナー テーマ別報告

11月号

第51回教育展望セミナー 全体会報告

10月号

教職員のメンタルヘルス

9月号

Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に
関する政策パッケージをめぐって

7・8月合併号

指導と評価と目標の視点から学習評価を考える

「教育展望」臨時増刊

セミナー 研究討議資料

A5判、定価2619円(2381円+税)

No.55 (第52回教育展望セミナー) 2023年7月発行予定、104頁予定
変革の時代の学校教育を展望するIII
子どもが主体的に学びを深めるための学習指導の在り方I

No.54 (第51回教育展望セミナー) 2022年7月発行、104頁
変革の時代の学校教育を展望するII
子どもが主体的に学びを深める学校教育の在り方I

教育調査研究所

一般財団法人

[理事長 新井郁男]

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館
TEL: 03-3520-2970 FAX: 03-5579-6574
E-Mail: chouken@estate.ocn.ne.jp

エンパワーメント・ギャップ
メイラ・レヴィンソン著
渡部竜也、桑原敏典訳

主権者になる資格のない子どもはいない
市民権行使の機会や能力における子どもの格差を米国の学校事例から分析し、多様な
差異に関する民主的な社会参加への教育の役割を探る。▼A5判上製・四二二頁・四五〇〇円

フンボルトの陶冶理論と教育改革
宮本勇一著

学問中心カリキュラムの再考
W・V・フンボルトの思想と学校教授の原理を探究、自己と世界の方法的対峙として
の陶冶と知の形態としての学問から教育を再考する。▼A5判上製・五五二頁・六〇〇〇円

ドイツの幼児教育におけるビルドゥング
中西さやか著

子どもにとっての学びを問い直す
ドイツの幼児教育の政策とそこでビルドゥングの理念を考察し、自らの経験を理解
し意味づけていく幼児期特有の学びの過程を描く。▼四六判上製・二四二頁・四〇〇〇円

インクルーシブ教育のかたち
柴垣登著

都道府県ごとの特別支援教育の違いから
特別支援教育や通常教育の包摂／排除や統合／分離という二分法的な議論にとどま
らない、その実現可能な工夫のしどころをはかる。▼A5判並製・二七二頁・三六〇〇円

討議倫理と教育
丸橋静香著

アーベル、ヨナス、ハーバーマスのあいだ
討議という倫理はどのように互いを支えるか。向かい合うもの同士の合意や承認をめ
ぐる関係を、責任や対話実践の問いから解き明かす。▼四六判上製・二八八頁・三九〇〇円

社会教育における生活記録の系譜
新井浩子著

戦前戦後の日本各地の生活綴方・生活記録実践の展開を具に検討し、自身の生活を
書く・読むという行為による表現や経験を顧みる。▼A5判上製・四四二頁・四五〇〇円

ディープ・アクティブラーニングのはじめ方
山川修・早川公著

つながりのなかに主体性を取り戻す
学習者自身が多角的に問題を解決できるよう、デザイン思考とリダーシップ・トレ
ーニングの要素を採り入れた方法を新たに展開する。▼A5判並製・二二六頁・二二〇〇円

コトのデザイン
谷内真之助・山川修著

発想力を取り戻す
ことごとの仕組みや関係性を、学習者自身が複層的に構想していく方法を提案。そ
の発想のプロセスを培う多様な意義をあらわす。▼A5判並製・二二五頁・二五〇〇円

春風社

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘 53 横浜市教育会館 3 階
電話：045-261-3168 / FAX：045-261-3169 info@shumpu.com

*表示価格はすべて税別です

現代カリキュラム研究の動向と展望

日本カリキュラム学会 編

主な内容

【第I部 カリキュラム理論の展望】

カリキュラムとは何か／カリキュラムの歴史／カリキュラム編成の基本問題／学力とカリキュラム／教科とカリキュラム／道徳教育とカリキュラム／総合的な学習とカリキュラム／特別活動とカリキュラム／生徒指導・生活指導とカリキュラム／インクルーシブ教育とカリキュラム／幼児教育とカリキュラム／教育課程経営とカリキュラム・マネジメント／カリキュラムの計画・実施・評価／カリキュラムの今日的課題

【第II部 カリキュラム実践の課題】

わが国における学習指導要領の変遷／小学校におけるカリキュラム／中学校におけるカリキュラム／高等学校におけるカリキュラム／大学におけるカリキュラム／生涯学習とカリキュラム／授業研究とカリキュラ

ム／「学校を基礎としたカリキュラム開発」／研究開発学校とカリキュラム開発／教科書とカリキュラム研究の課題／教師教育とカリキュラム／教育課程行政とカリキュラム／学習評価とカリキュラム／海外のカリキュラム実践からの示唆

【第III部 カリキュラム研究の方法】

カリキュラムの哲学的研究／カリキュラムの歴史的研究／カリキュラムの教育方法学的研究／カリキュラムの社会学的研究／カリキュラムの教育工学的研究／カリキュラムの心理学的研究／カリキュラムの経営学的研究／カリキュラムの行政学的研究／カリキュラムの国際比較研究／カリキュラムの批判的研究／カリキュラム研究の新しい動向

現代カリキュラム研究の動向と展望

日本カリキュラム学会 編

A5判 / 420 ページ
定価：5,060 円 (税込)

日本カリキュラム学会の 30 周年記念出版。カリキュラム理論の展望、カリキュラム実践の課題、カリキュラム研究の方法について幅広く取り上げて論究。

教育出版

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館
https://www.kyoiku-shuppan.co.jp

TEL 03-5579-6725
FAX 03-5579-6693



教育学関係学術図書のご案内

価格は税込。

レリバンスを構築する歴史授業の論理と実践
二井正浩編著 2750円

レリバンスの視点からの歴史教育改革論
二井正浩編著 2750円

書くことの指導における相手意識の研究
森田香緒里著 8800円

日本学術振興会の設立に関する研究
山中千尋著 11000円

地方学力テストの歴史—47都道府県の戦後史—
北野秋男著 7700円

米国社会科成立期におけるシティズンシップ教育の変容
斉藤仁一朗著 9900円

子どもの権利をまもるスクールロイヤー
松原信継・間宮静香・伊藤健治編著 2750円

現代キャリア教育システムの日仏比較研究
京免徹雄著 8250円

アメリカ教育長職の役割と職能開発
八尾坂 修編著 3300円

現代韓国における歴史教育の立論と構想
梁豪煥著／福田喜彦・井上奈穂・金聖政訳 4950円

ドイツの学力調査と授業のクオリティマネジメント
原田信之著 2750円

歴史教師のビリーフに関する国際比較研究
宇都宮明子・原田信之編著 2750円

新しい歴史教育論の構築に向けた日独歴史意識研究
宇都宮明子著 10450円

デューイのオキュペーション概念に基づく芸術的構成活動
小島律子著 8250円

近現代日本教員史研究
船倉俊雄・近現代日本教員史研究会編著 4950円

社会科教育へのケイパビリティ・アプローチ
志村 喬編著 3300円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風 間 書 房

(URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp

戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 第1回配本 東日本編 全3巻

[編集・解題] 金馬国晴(横浜国立大学教授)／安井一郎(獨協大学教授)

[体裁] B5判・上製・約1,900頁／ISBN978-4-908823-38-1 C3337 [定価] 本体90,000円+税

[巻構成] 第1巻: 解題・資料一覧 北海道・東北・北関東 第2巻: 東京・南関東 第3巻: 北陸・甲信越・東海

戦後初期、1948年～1950年代に各地の教師が自主的に作成したカリキュラム冊子を厳選して編集復刻!!

戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 第2回配本 西日本編 全3巻

[編集・解題] 金馬国晴(横浜国立大学教授)／安井一郎(獨協大学教授)

[体裁] B5判・上製・約1,900頁／ISBN978-4-908823-60-2 C3337 [定価] 本体90,000円+税

[巻構成] 第4巻: 解題・資料一覧 近畿1(滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山) 第5巻: 近畿2(兵庫) 第6巻: 中国・四国・九州

戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 第3回配本 附属校編 全3巻

[編集・解題] 金馬国晴(横浜国立大学教授)／安井一郎(獨協大学教授)／溝邊和成(兵庫教育大学教授)

[体裁] B5判・上製・約2,000頁／ISBN978-4-908823-68-8 C3337 [定価] 本体90,000円+税

[巻構成] 第7巻: 解題・資料一覧 東日本(北海道・東北・関東・中部) 第8巻: 西日本1(近畿1(京都・兵庫)) 第9巻: 西日本2(近畿2・中国)・四国・九州

戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 第4回配本 中学校編・附属校編 全4巻

[編集・解題] 金馬国晴(横浜国立大学教授)／安井一郎(獨協大学教授)／溝邊和成(兵庫教育大学教授)

[体裁] B5判・上製・約2,200頁／ISBN978-4-908823-91-6 C3337 [定価] 本体120,000円+税

[巻構成] 第10巻: 附属校編補遺・境界編 第11巻: 中学校編 東日本編1 第12巻: 中学校編 東日本編2 第13巻: 中学校編 西日本編

戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 第5回配本 諸団体編・補遺 全4巻

[編集・解題] 金馬国晴(横浜国立大学教授)／安井一郎(獨協大学教授)／溝邊和成(兵庫教育大学教授)

[体裁] B5判・上製・約2,400頁／ISBN978-4-910672-10-6 C3337 [定価] 本体124,000円+税

[巻構成] 第14巻: 諸団体 東日本 第15巻: 諸団体 西日本 第16巻: 補遺 一般校 第17巻: 補遺 附属校

全17巻完結

クロスカルチャー出版

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-7-6
TEL: 03-5577-6707 FAX: 03-5577-6708 <http://crosscul.com>

■ 目 次 内 容 見 本



祝 日本カリキュラム学会 第34回大阪教育大学大会

認知心理学者が教える
最適の学習法
ビジュアルガイドブック

ヤナ・ワインスタイン ほか著
山田祐樹 日本語版監修
岡崎善弘 訳



科学的エビデンスに基づいた「学習法」の最適解!!

認知心理学者の研究・実験を用いて導き出した、効果的な学習法・指導法を、多くの具体例や、図・イラストを用いてわかりやすく解説。

定価：1870円(税込)
978-4-487-81634-7

大増刷
出来!

はじめての
デザイン思考

基本BOOK &
実践CARDSs 伊豆 裕一 著

日本企業でもいま注目される、この世界標準の課題解決手法が、書籍に掲載されダウンロードも可能な54枚のカードで実践できる!

さまざまなシーンで使える!

ビジネスパーソンまで

学生から



定価：1980円(税込)
978-4-487-81519-7

リーダーシップを鍛える

田村次朗 著
隅田浩司

対話学のすゝめ

最良の
意思決定に導く
SPICEアプローチ
とは?

集団を最良の意思決定に導くカギであり、組織を変革させる「対話学」入門。リモート時代にこそ求められる「対話」の力を磨く。



定価：1650円(税込)
978-4-487-81852-6

東京書籍

お問い合わせは出版事業部 Tel:03-5390-7531 Fax:03-5390-7538
関西支社 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-4-10 Tel:06-6397-1350 Fax:06-6397-1358
ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp> 東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

【新刊】幼児教育資料アーカイブ4〔編集復刻版〕

子供の教養

全10巻
別冊1

体裁ⅡA4判4面付・上製・総約3,800頁 別冊Ⅱ解説・総目次索引
解説Ⅱ福元真由美 推薦Ⅱ太田素子・広井多鶴子
全3回配本 揃定価Ⅱ277,750円
★最終回第3回配本(第7・10巻・別冊1)4月刊行予定!
揃価格Ⅱ112,750円

大正期以降、急増する会社員、官吏、マスコミ、教育関係者ら勃興するホワイトカラーの父母たちの期待を受け、日本全国、そして朝鮮、台湾へと広くその読者層を広げた『子供の教養』。新たな自己像の獲得を試みた母親たちに歓迎された、児童の保育と母親の教育とは? 1930年代から戦後につながる、高崎能樹、武南高志、佐藤瑞彦、赤井米吉、上澤謙二らの、育児を通じた「個性本位」の啓蒙誌。子供の教養は、幼児教育の現在と近代家族の在り方、戦前期の児童文化研究に新たな光をあてるだろう。

幼児教育資料アーカイブ3〔編集復刻版〕

幼小接続資料集成

全7巻
別冊1

体裁ⅡA4判2面付(第6巻・B5判/第7巻・A5判)・上製・総約4,800頁
別冊Ⅱ解説 編集・解説Ⅱ太田素子・小玉亮子・福元真由美・浅井幸子・大西公恵
推薦Ⅱ汐見稔幸・無藤隆 全3回配本 揃定価Ⅱ162,800円

幼児教育から小学校教育への子どもの成長に合わせた、なめらかな「接続」とは? 戦後から2010年代にいたるまで、さまざまに試みられた幼児教育と小学校教育との連携と実践の記録を、「幼小接続」という視点から本格的に集成。

幼児教育資料アーカイブ2〔編集復刻版〕

戦前期愛育会関係資料集成

全11巻 体裁ⅡB5判(一部2面付)・上製・総5,822頁
編集・解説Ⅱ湯川嘉津美 推薦Ⅱ網野武博・六戸健夫
全4回配本 揃定価Ⅱ242,000円

幼児教育資料アーカイブ1〔復刻版〕

関西連合保育会雑誌

全2巻

体裁ⅡB5判・上製・総1,052頁 解説Ⅱ湯川嘉津美
揃定価Ⅱ39,600円

【編集復刻版】

大正新教育学級・学校経営重要文献選

全10巻 体裁ⅡA5判上製・総4,026頁 編集・解説Ⅱ橋本美保・遠藤知恵
推薦Ⅱ天笠茂・佐藤学 全II期・全3回配本 揃定価Ⅱ198,000円
現場Ⅱ「教育の現実」から学ぼうとした、大正新教育期における教育者たちの実践の記録から、カリキュラム・マネジメントという視点で「学級経営」「学校経営」に関する論考・文献を精選、復刻する初めての試み!

【編集復刻版】

戦後新教育「実力の検討」実践資料集

全4巻 体裁ⅡB5判・上製・総2,836頁
推薦Ⅱ影山清四郎・梶山雅史
揃定価Ⅱ107,800円

社会科の創設・推進者の一人であった石山脩平をはじめ多数の研究者が関わり、全国から注目を集めた神奈川県足柄上郡福沢小学校の「福沢プラン」に関する資料を収集復刻。

【編集復刻版】水原克敏編・解説

戦後改革期

文部省実験学校資料集成

〔第一期〕全9巻・体裁ⅡA4判・上製・総3,994頁
全3回配本 揃定価Ⅱ247,500円

戦後改革期における文部省の動向が分かる資料を含む、東京千葉・長野・奈良の各高等師範/大学附属小学校(一部中学校・高等学校)が報告した資料を復刻。

〔第二期〕全6巻・体裁ⅡA4判・上製・総2,504頁
全2回配本 揃定価Ⅱ165,000円

初等教育実験学校研究資料第1集から第25集(昭和27年〜36年発行)、ならびに昭和28年度・29年度研究発表要綱を収録。経験主義教育から系統主義教育への転換を示す。

〔第三期〕全3巻・体裁ⅡA4判・上製・総1,228頁
揃定価Ⅱ82,500円

初等教育実験学校報告書1から12(昭和36年〜40年発行)を収録。特設道徳・特別教育活動による人間形成と学習指導の「能率化」「効率化」を重視する方針を示す重要資料を復刻。

日本カリキュラム学会第34回（大阪教育大学）大会プログラム

2023年7月8日（土）・9日（日）

大会実行委員会

大阪教育大学（天王寺地区）

大阪市天王寺区南河堀町4-88

委員長：木原俊行

副委員長：峯明秀

事務局長：田村知子

事務局長補佐：八田幸恵

実行委員：白井智美、佐久間敦史、陸奥田維彦

森本和寿、吉田茂孝、吉野秀幸

